

ここからはじまる物語



宇和島の玄関口「宇和島駅」

訪れる人、旅立つ人

ここからそれぞれの物語が始まります。

今回は、年末を迎え多くの人を利用する宇和島駅を特集します。



当たり前じゃない日常がある。



宇和島駅のコト

宇和島駅は1914年（大正3年）に宇和島鉄道の駅として開業し、駅舎は現在の城北中学校付近にありました。1916年（大正5年）に今の場所に移転し、1998年（平成10年）に現在の駅舎に建て変わりました。

旅行や通勤通学の足として市民に親しまれている宇和島駅。しかし当たり前前に利用しすぎていて、あまり気付かれていないコトが多い気がします。たとえば、宇和島駅は終着駅というこ

右／宇和島百景No.103「ただいま、牛さん！」
駅前では闘牛象がお出迎え。年に5回開催される闘牛大会が近づくと、駅周辺にのぼりが立てられ闘牛ムードが高まります。当日は駅前から無料シャトルバスも運行しています。



上／宇和島百景No.97「宇和島の玄関口」。お見送りやお出迎えの思い出が詰まったコンコースには、笹飾りなど季節の風物詩が飾られたりします。中／駅前広場に展示されている蒸気機関車は、宇和島鉄道時代に走っていたコッペル社（ドイツ）製1号機関車のレプリカです。手前の説明書きのスイッチを押すと、本市出身の大和田建樹が作詞した「鉄道唱歌」のメロディが流れます。下／和霊公園に設置されているC12型蒸気機関車。実際に宇和島で活躍していた車両です。現在は公園のシンボルとして親しまれています。

宇和島駅は、
通過しない駅。
はじまりの駅で、
たどりつく駅。

宇和島百景No.95
「ホビートレイン」
日本一遅い新幹線が
出発の時を待ちます。

とは誰もが知っていると思います。しかし終着駅ということは、通過せずに停まるということ。乗り継ぐとしても、乗客は一度外に出て宇和島の空気を感じているのです。乗っている誰もがその地に触れる場所。そんな駅はあまりないのではないでしょうか。

日本一遅い新幹線が走り、駅から一歩出ればたくさんヤシの木が並ぶ南国感あふれる風景。すぐ近くの山では桜が日本一早く咲き、闘牛大会で1トン級の牛が激しくぶつかり合う！。

市民にとっては当たり前だけど、知らない人には当たり前じゃないコト。改めて宇和島駅の良さを見つめ直してみませんか。



宇和島駅ノスタルジー

昭和30年頃の宇和島駅前の様子

昔のような活気あふれる駅前に。

(株)宇和島名産即売所 清水一さん、昌和さん

人が多すぎて
外に出られなかった。

1954年に駅前の土産物屋として創業を始めた(株)宇和島名産即売所。現在は3代目の清水一さんに代わりし、パフィオうわじまのテナント棟に移転して営業を続けています。一さんの父親で2代目の清水昌和さんは、昔は学生が今よりずっと多く、朝の通勤通学の時間帯は歩道が人であふれ、店舗から出られないほどだったと言います。年末年始やお盆の時期は、送迎の車で大渋滞だったそうです。

今でも写真を撮っている人はよく見かけますが、昔の方が鉄道好きなの市民も多かったと言います。昔からの鉄道ファンとは「車輪が何回転したら松山まで辿り着くか」といった話で盛り上がったそうです。また丸山に闘牛場ができると、大会の日は駅からシャトルバスが運行して一段と賑わいを見せました。

しかし近年、駅利用者は減っていく一方。人通りがまばらな駅前には寂しさをぬぐえないと言います。

これからの時代に合った
お土産屋さん。

来年の干支は丑。例年は闘牛のグッズが売れるそうですが、最近では牛鬼の人気が高まっているそうです。一さんは、闘牛の認知度は高いので、これからの時代に向けて厄除けの意味でも牛鬼を売り出していきたいと話します。また、ポケットパークも整備されたので、気軽に立ち寄ってもらえるようにと駄菓子などの取り扱いも始めました。

一さんは、駅やパフィオうわじまをはじめ周辺店舗や団体と連携しながら、駅周辺の活気を取り戻したいと力強く語ってくれました。



(株)宇和島名産即売所

1954年創業の「駅前のお土産屋さん」。銘菓から工芸品まで、幅広い宇和島の土産物が揃います。



左／平成7年頃の店舗外観。中／3代目の清水一さん。駅前にもっと人が集まってくるしかけを考えていきたいと話します。右／創業当初から販売されている立牛鬼。



宇和島駅×現代アート

扇形車庫と 転車台

昭和初期より残る扇形車庫を、ギャラリーとして再生するプロジェクトが進んでいます。9月には企画展「みえるものとみえないもの展」が開催されました。



大竹伸朗と宇和島駅

本市在住の現代美術家 大竹 伸朗 さんは、旧宇和島駅のネオン看板をアートとして蘇らせ、自らの個展などで展示しています。また、この作品をモチーフとしたTシャツも作成していて、パフィオウわじまなどで販売しています。



ココロまじわうトコロ 宇和島駅

ワシントンヤシ通り、闘牛像、SL模型、宇和島駅前には多くの風景があります。観光で訪れた人にとって新しい発見となり、帰省した人にとっては懐かしいシンボルでもあります。そんな風景も時代と共に変わっていき、2018年には、図書館や子育て支援センターなどが入った駅前複合施設「パフィオウわじま」がオープンしました。さらに今年10月には「畑枝川親水ポケットパーク」が完成し、新たな憩いの場として整備されました。年末に帰省する人は様変わりした景色に驚いたり、少し寂しくなったりするのかもしれない。しかし、変わっていくからこそ、その当時を懐かしく思えるのだと思います。宇和島駅を使ったときの思い出が、その当時の宇和島駅とともに心の中にあり、懐かしい思い出が「まじわう」場所としてあるのだと思います。これからも宇和島駅から誰かの物語がはじまり、新しい発見や懐かしい思い出が生まれることでしょう。そのときから宇和島駅はその人の「ココロまじわうトコロ」として在り続けるのだと思います。